

## 人権教育に関する特色ある実践事例

### 基準の観点

個別人権課題をテーマとして効果的に取り扱った実践事例

### 1. 基本情報

#### ○都道府県名及び市町村名

福岡県豊前市

#### ○学校名

豊前市立八屋小学校

#### ○学校のURL

<http://ww32.tiki.ne.jp/~hachiya-syo/>

### 2. 学校紹介

#### ○学級数

【通常の学級】8学級、【特別支援学級】2学級、【合計】10学級

#### ○児童生徒数

【全児童生徒数】199人（平成27年5月1日現在）

（内訳：1年生33人、2年生47人、3年生39人、4年生32人、  
5年生29人、6年生19人）

#### ○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

平成24・25年度 文部科学省「人権教育研究指定校事業」研究指定校

#### ○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

##### 【学校の教育目標】

豊かな心と、たくましく生きる力を身に付けた児童の育成

- は はつらつ やる気いっぱい（体育）
- ち チャレンジ 学びいっぱい（知育）
- や やさしさ 思いやりいっぱい（徳育）

##### 【人権教育の目標】

- (1) 福岡県人権教育・啓発基本指針、豊前市人権施策基本方針に基づき、児童一人一人の人権を大切にする人権教育を推進する。
- (2) 人権尊重の精神の育成を図るため、児童の発達段階や地域の実態を踏まえ各教科等において系統的・発展的な教育活動の実践を目指す。
- (3) 自他の人権を大切にするための知識や態度・実践力を育成するため、その基盤となる人間関係づくりを大切にしていく。
- (4) 一人一人の子どもがもっている可能性を伸ばすことができるように、指導方法の工夫・改善や特別支援教育の推進を図るとともに、教育条件の整備を図る。

#### ○人権教育に係る取組一口メモ

「外国人の人権と異文化」の理解を促す授業モデルの開発を、教科等での体験活動と道徳の時間とを組み合わせた学習展開の工夫を通して行っている。

## ○人権教育に係る取組の全体概要

### 【具体的な取組内容】

#### (1) 集団づくり

- ・相手の思いを受け止め、自分の思いを出せる、また、一人一人のよさが認められる集団をつくる。
- ・ペア学年やたてわりブロックの活動を通してリーダーとしての自覚を育てていくとともに、肯定的セルフイメージの高揚につながっていくような集団づくりを進める。
- ・一人一人のよさを認め合っていくとともに、互いに指摘し合って高め合える人間関係づくりに努める。
- ・家庭・地域との連携を図りながら、学校の教育活動全体を通じた人権感覚の育成に努める。

#### (2) 人権学習

- ・「人権を確かめ合う日」、「人権を確かめ合う週」、7月の同和問題啓発強調月間、12月の人権週間を組織的に取り組む。
- ・毎月、「人権を確かめ合う日」を設定し、日頃の生活を振り返り人権について考えさせる。
- ・福岡県人権教育教材集『かがやき』『あおぞら』等を計画的に活用し、自他の人権を大切にす人権学習に取り組む。
- ・周りの子供との「ちがい」を知り、「ちがいを認め、共に生きていける力」をつける取組を進める。

#### (3) 「いのち・こころ」学習

- ・実態把握のため、毎月いじめ問題に係る「学校生活（いじめ早期発見）アンケート」を実施し、問題の早期発見に努める。また、学期に一度、「学校・家庭生活アンケート」をとった上で個人面談を全員に行い、好ましい人間関係づくりができるように努める。
- ・担任と養護教諭が協力し合って生（性）教育に取り組む。
- ・担任と栄養職員が協力し合って食育に取り組む。
- ・年間を通して平和教育を定着させていく。

#### (4) 学習・生活サポート

- ・不登校及び課題のある児童などについて情報交換を行い、実態を把握するとともに、落ち着いた学校生活を送れるよう個に応じたサポート体制をつくる。
- ・特別に支援が必要と思われる児童に対する指導内容の工夫や教材の具体化などを図る。

## 3. 特色ある実践事例の内容

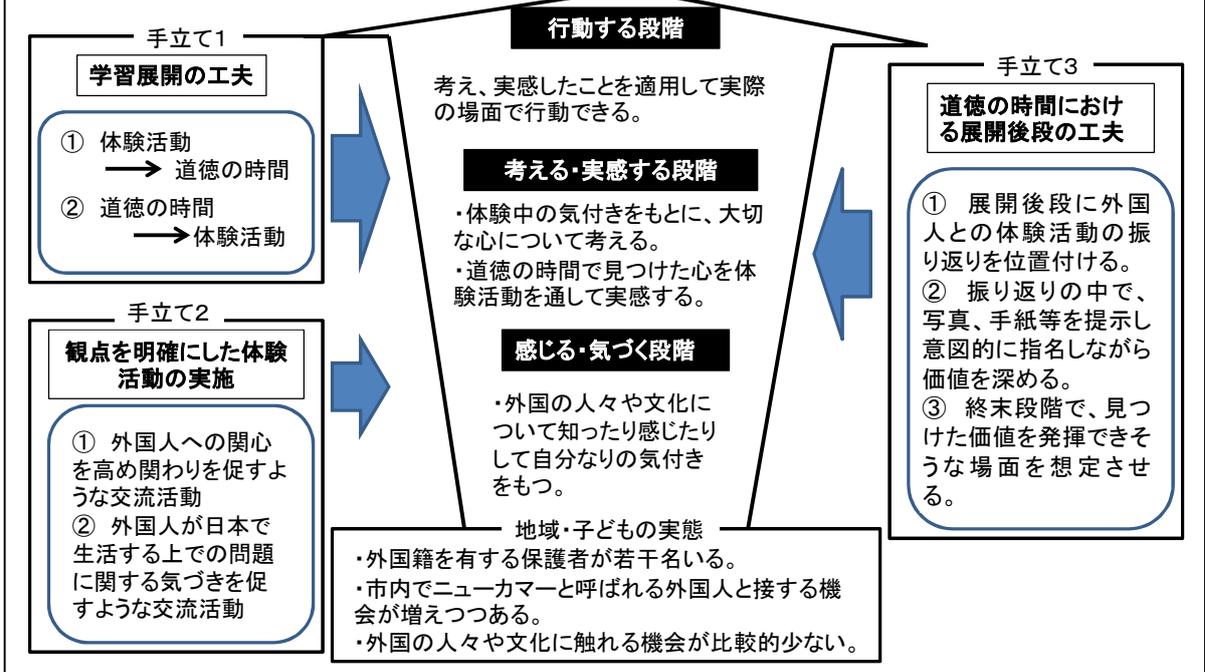
### 【取組の背景】

近年の国際化を反映して豊前・築上地区に在留する外国の人々も少しずつ増加する傾向にあり、市内でも様々な外国の人々と接する機会が増えつつある。また、本校においても外国籍を有する保護者がいることから、「外国人の人権と異文化」の理解を深める取組を全校で進めていく必要がある。

【研究の構想】

「外国人の人権と異文化」の理解とは、外国の人々に対する偏見や差別意識を解消し、外国の人々のもつ文化や多様性を受け入れ、国際的視野に立って一人一人の人権を尊重していくことである。このような観点を踏まえ、小学校という発達段階と本校の実態に照らして、本研究では、以下の研究構想図に示すような子供の育成を目指した。

- 外国の人々や文化に関心をもち知ろうとする子ども（知識的側面）
- 外国の人々や文化に対して偏見をもたず尊重しようとする子ども（価値的・態度的側面）
- 外国の人々に対して思いやりの心をもって接しようとする子ども（技能的側面）



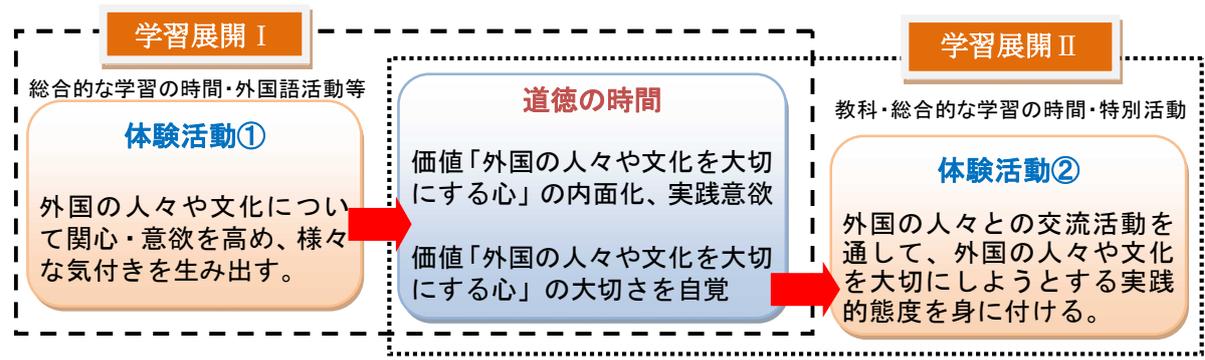
目指す子供を育成するには、子供自身が「感じる・気づく」→「考える・実感する」→「行動する」ような主体的・実践的な学習を展開する必要がある。そこで、体験活動や道徳の時間の中での「感じる・気づく段階」、「考える・実感する段階」、「行動する段階」を踏むことで、目指す子どもに迫っていきたいと考えた。

【構想の具体化】

- 手だて1 学習展開の工夫

取り上げる題材や学年に応じて、次のような二つの学習展開をとることにした。

- ・学習展開Ⅰ 外国の人々との交流活動 → 道徳の時間の学習〈体験活動先行型〉
- ・学習展開Ⅱ 道徳の時間の学習 → 外国の人々との交流活動〈道徳先行型〉



外国の人々との交流活動を学習サイクルの中に位置付け、自分の行動や態度へ適用させていくような学習を進めることは、これまで本校が目指してきた「よりよい生き方を追求していく」子供の育成にもつながり、大変意義深いと考えた。

○ 手立て2 観点を明確にした体験活動の実施

外国の人々との交流活動には、以下の2つの観点を位置付けることとした。

- ① 外国の人々への関心を高め、関わりを促すような交流活動
- ② 外国の人々が日本で生活する上での問題に関する気付きを促すような交流活動

○ 手立て3 道徳の時間における展開後段の工夫

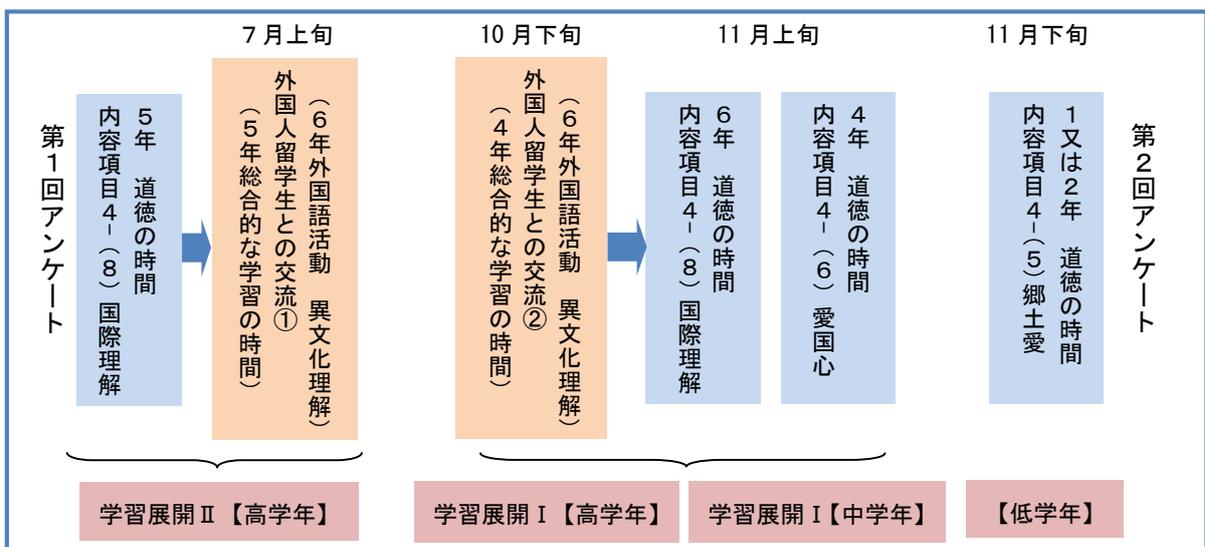
学習展開Ⅰでの道徳の時間においては、以下の手立てを取ることにした。

- ① 展開後段に、外国の人々との交流活動について振り返る場を位置付ける。
- ② 振り返りの場で、写真、手紙、日記などを提示し、意図的指名をしながら話し合いを進め、目指す価値を深める。

学習展開Ⅱにおいては、以下の手立てを取ることにした。

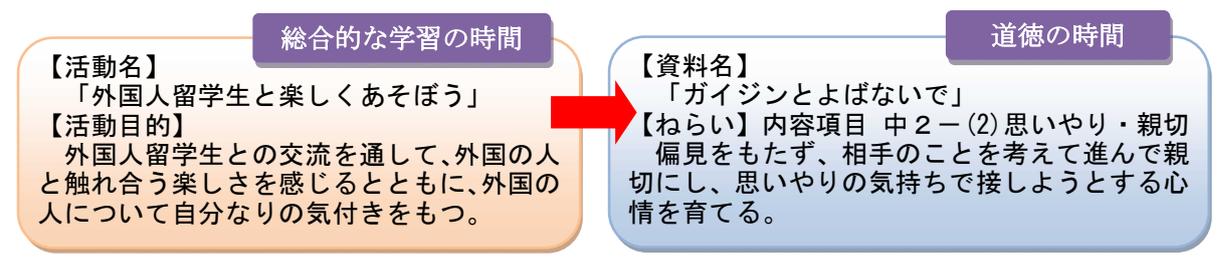
- ③ 終末段階で、読み物資料を使って見いだした大切な心が発揮できそうな場面を想定させ、外国の人々との交流への自信と意欲を高めていく。

【授業実施計画】



【授業の実際】

ここでは、10月下旬から11月上旬にかけて、4年生が学習展開Ⅰ（体験活動先行型）で行った実践を取り上げる。



○ 検証の視点

- ・ 外国人留学生との交流を通して、外国の人々と触れ合う楽しさを感じるとともに、外国の人々の感じ方や考え方について自分なりの気づきをもつことができたか。（「感じる・気づく段階」の価値的・態度的側面）（検証方法：行動観察・振り返りカードの記述分析）
- ・ 道徳の時間で、外国の人々と接するときに偏見をもたず、相手のことを考えて思いやりの気持ちで行動しようとする心情をもつことができたか。（考える・実感する段階の知識的側面、価値的・態度的側面）（検証方法：道徳の時間の発言・ワークシートの記述分析）

A 総合的な学習の時間での交流活動

外国人留学生5名との交流活動を行った。あいさつ、自己紹介の後のゲームの時間には、じゃんけん列車やだるまさんがころんだ等の遊びを複数用意して、外国人留学生に子供たちが遊び方を教えながら一緒に遊んだ。子供たちは、外国の人々と触れ合う楽しさを感じている様子だった。

○ 活動名 「外国人留学生と楽しく遊ぼう」

○ 活動目標

外国人留学生との交流を通して、外国の人々と触れ合う楽しさを感じるとともに、外国の人々の感じ方や考え方について自分なりの気づきをもつことができる。

○ 活動の流れ

- 1 はじめのあいさつ（4年生児童）
- 2 自己紹介
- 3 ゲーム
- 4 質問タイム
- 5 振り返り
- 6 おわりのあいさつ（4年生児童）

検証場面「感じる・気づく段階」  
での価値的・態度的側面



【質問タイムの様子】

B 道徳の時間の学習

○ 資料名 「ガイジンとよばないで」（日本標準）

○ 資料の概要

主人公の杏奈がおばあちゃんの「ガイジンがいっぱいいていやだね。」という言葉から、おばあちゃんの外国の人々に対する意識に疑問をもち、お母さんとの会話から、外国の人々への偏見はよくないことだと考えを深める話。

○ 内容項目 中4－（6）愛国心 中2－（2）思いやり・親切

○ ねらい

外国の人々と接するときに偏見をもたず、相手のことを考えて思いやりの気持ちで行動しようとする心情を育て、外国の人々への関心を高める。

○ 展開

	主な学習活動	学習の様子
導入	<p>1 交流会の写真を提示し、外国の人々と関わる時の心について振り返り、本時の目当てをつかむ。</p>	<p>(C : 児童、T : 指導者)</p> <p>C 説明を分かってくれてうれしかった。</p> <p>C たくさん話したり遊んだりできて楽しかった。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">外国の人々とかかわるときに、大切な心を見つめよう。</div>	
展開前段	<p>2 資料『「ガイジン」とよばないで』をもとに、主人公やおばあちゃんの気持ちや考えについて話し合う。</p> <p>(1) おばあちゃんが「ガイジンがいっぱいいいていやだね。」と言ったときの主人公の気持ちについて話し合う。</p> <p>(2) お母さんの話から、外国の人への偏見について話し合う。</p> <p>(3) 「悪口を言わないこと」から実行しようと思った主人公の気持ちを考える。</p>	<p>C なぜそんなことを言うのかな。</p> <p>C 「ガイジン」という言葉が気になった。</p> <p>C 外国の人は、「たいへんだね」とか「がんばってね」とか声をかけてくれるので優しい。</p> <p>C みんないいところもあるし悪いところもあるのに、おばあちゃんは悪いことしか見ていない。</p> <p>C 優しくていいことをしている人もいるのに、悪口は当たっていないから。</p> <p>C 悪い面だけを見ていないで、いい面もある。</p> <p>C 杏奈(主人公)も外国に行けば外国人。</p> <p>T みんなが気づいたように、よくないところだけを見るようなかたよった見方をすることを「へん見」と言います。外国の人と接するとき大切な心が一つ見つかりましたね。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">検証場面①「考える・実感する段階」での知識的側面</div>	
展開後段	<p>3 交流会時の体験を振り返り、親切にできた経験を出し合い、そのときの気持ちについて考える。</p>	<p>C 分かりやすく優しく説明しようと思いました。</p> <p>C 楽しくしてもらいたいと思って交流しました。</p> <p>T もう一つ大切な心を見つけましたね。</p> <p>C 思いやりをもって親切にする。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">検証場面②「考える・実感する段階」での価値的・態度的側面</div>	
	<p>4 外国人留学生からのメールを</p>	<p>T 留学生の方からメールが届いていま</p>

終 末	読み、今日の学習で見つけた大切な心を生かしていきたいこと（場面）を考え、これからの生活について考える。	す。（子供たちが思いやりをもって接してくれて楽しかったことが書かれている。） C これからは、「へん見」をなくしていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いやりをもって親切にする心</li> <li>・「へん見」をもたず自分から関わろうとする心</li> </ul>	

#### 4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

##### A 総合的な学習の時間での交流活動に関して

外国人留学生への質問の中に、「困ったこと」など意図的な質問を入れ、事前に質問事項を伝えていたが、子供に外国人の人権に関する問題を意識させることは難しかった。中学年では、「仲良くなった〇〇さんは、こんなことがいやだったみたいだよ。」といった意識を持たせたい。そのためには交流中に小グループで感想交流の場を設け、打ち解けた雰囲気の中で留学生に話してもらおうとよいと考える。

##### B 道徳の時間の学習に関して

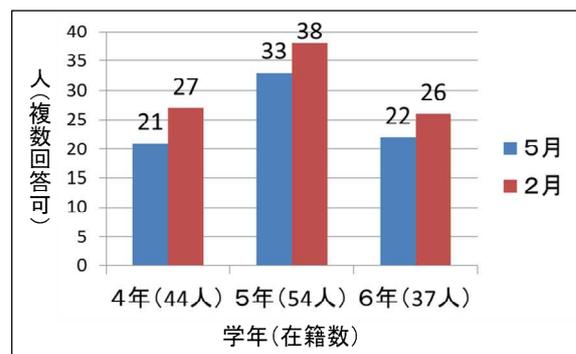
小学校段階で外国人の人権について考えさせるには、内容項目「2-(2)思いやり・親切」を基盤とする必要があった。人権感覚のベースとなる「思いやり」の心が大切であることを押さえた上で、外国の人々に対する「偏見」について知的理解を促していく授業展開を構想すべきであると考え。体験活動を通して外国の人々と交流することの楽しさを感じさせ、先入観を払拭した上で、道徳の時間で適切な資料を選び、中学年では「思いやり」、高学年では「公平公正、正義」の指導の中で「偏見」について学ばせる。その後は、中学校の4-(3)「差別や偏見のない社会の実現」につなげていく。

#### 5. 実践事例の実績、実施による効果

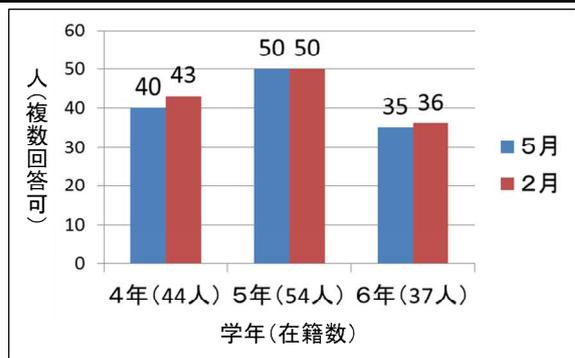
##### 【外国人に関する児童の意識調査から】

5月と2月にアンケートを実施し、意識の変容を基に学習の効果を検証した。調査結果の比較から、外国の人々が増えることや近くに住むことについてプラスに評価している児童の数がどの学年でも増えていた。また、『外国人お断り』についてどう思うか?という項目では、おかしいと感じている児童の数が二つの学年で増えていた。さらに、外国の人々が住みよい町にするための方法に関しては、記述内容がより具体的になり、相手を尊重して接する心情が育っていることがうかがえる。

- 「外国の人々が近所に引っ越してきたらどう思うか?」に対する「外国の言葉を聞く機会が増えて良い」等、プラス評価の内容を記述した人数



- 『外国人お断り』についてどう思うか?」に対する「外国人に対する差別だから許されない」「断られた外国人が傷ついていると思う」等、おかしいと評価する内容を記述した人数



- 「外国の人々が住みよいと思えるまちにするにはどうしたらよいか?」に対する記述内容

- 〈5月調査時〉
- ・優しく話しかける  
(親切にする、分からないことは教えてあげる、交流するなど)
  - ・差別をしない  
(日本人と同じような扱いをする)
  - ・看板などに外国人が読めるような文字を入れる
  - ・自分たちが、外国語を話せるようになる
  - ・日本語を教えてあげる
  - ・外国について知る

- 〈2月調査時〉
- ・まわりが受け入れる気持ちが大切
  - ・触れ合う機会を増やす
  - ・外国人お断りのアパートをなくす
  - ・相談するところをつくる
  - ・友達になる
  - ・地域の外国人に自分から話しかけて優しく接する
  - ・安心して暮らせる工夫をする
  - ・外国人の習慣を分かってあげる
  - ・外国人に合わせて親切・平等に接する

## 6. 実践事例についての評価

### 【研究の成果と課題】

#### 〈成果〉

- ・ 体験活動と道徳の時間を関連させた学習展開は、子供自身が「感じる・気づく」→「考える・実感する」→「行動する」ような主体的・実践的な学習を成立させる上で効果があった。特に、道徳の時間と関連させることで、人権感覚の基盤になる「相手の立場や状況を正しく理解し、思いやりの心をもって接しようとする」心情の上に立った実践を進めることができた。
- ・ 外国人留学生との体験的な活動を取り入れた学習は、子供に外国の人々のもつ文化のよさや多様性に気付かせ、外国の人々と接することの楽しさを十分に味わわせることができた。結果として、外国の人々に対する偏見を解消する素地を養うことができた。

#### 〈課題〉

- ・ 本校で取り上げることのできた外国の人々に関する人権問題は、日常生活レベルのものとなってしまった。これは、外国の人々に対する差別や偏見といった切実な課題を、子供の身近な生活の中から導き出せなかったことに原因があると考える。

【今後の取組の方向性について】

人権教育は自他の人権を守るための実践行動ができることを目標としている。そこで、外国の人々に対する偏見や差別意識を解消する行動ができる子供を育てるには、身近なところから切実な課題を見つけ出し、それを子供の学習問題として位置付け、問題解決にふさわしい交流対象との交流体験と省察を繰り返し、最後に行動として表出するような学習を展開することが大切だと考える。今後は、態度や行動で表すことができるようにするために、道徳の学習の後に、もう一度体験活動を位置付けるなど、改善しながら研究を推進していく。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

豊前市立八屋小学校

本校の「地区に在留する外国の人々も少しずつ増加する傾向」にあり、本校においても「外国籍を有する保護者がいること」等を受け止め、しかも、多くの児童に響くように、「外国人の人権と異文化」を前面に打ち出して人権学習を展開している。目標設定に合っ  
ては、知識的側面、~~・~~価値的・態度的側面及び技能的側面という三つの側面をバランス良く位置づけている。授業展開に当たっては、教科等での体験活動と道徳の時間とを効果的に組み合わせ、児童に「感じる・気づく」→「考える・実感する」→「行動する」という枠組みを持って行動力を育むことを大切にしている。そのため、外国の人々との交流を学習サイクルに位置づけ、そこで感じたことをベースにしつつ道徳の時間にその意義を振り返り定着させる学習を組み立てたり、道徳の時間に事前学習的な内容を学んだ上で外国人との交流を行ったりしている点に特徴がある。参加・協力・体験がどこにも顔を出し、アクティブラーニングに貫かれた人権教育となっている。